

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 16 日

札幌市立 真駒内曙中学校

1 今年度の重点目標

子どもの声を聴く・受け止める 分かる・できる・楽しい授業づくり

2 本年度の経営方針

人間尊重の教育を基盤し、知・徳・体の調和と育成、信頼への創造
 ～自己承認を意識させ、自己存在感・自己肯定感・自己有用感を育成する指導の工夫と充実～

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

| 分野 | 重点項目 | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|------------------------|---------------------------------------|--|------|--|----------|---------|
| | | | 達成状況 | 改善方策 | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 目指す子ども像 | すすんで考える生徒 すすんで話し合う生徒 すすんで実行する生徒 | ・目的、目標をもち、それに向かって最善の努力をする・互いに尊重し合い、対話を学び合う・自ら計画を立て実行し、改善しながら向上する | A | 生徒全体を対象とした学校評価では、昨年度と同程度の結果となった。学習指導要領に示されている「主体的で対話的な深い学び」の観点に照らして、生徒自身の意識を高め、学習活動全体を通して子ども像の実現に努めたい。 | A | A |
| 学校関係者評価委員会 による意見 | | ・アンケートのコメントもよく、学校祭など各種行事の際に見られる、教師と生徒の関係性の良さが伺える。 ・学校側の指導や目標が成果として生徒に届いているのではないかと。 | | | | |
| 人間尊重の教育 | 自分が大切にされている（自己存在感）」と実感できる学校づくり | ・互いのよさや可能性を認め合える人間関係づくり ・「育てる」取組から「育つ」取組へ ・安心して過ごすことができる環境づくり | A | 自己存在感を高めるため、一人一人の役割を意識した、学級組織づくりや行事参加の体勢づくりに努めることができた。引き続き、参加意欲を高めるはたらきかけを通して、自発的な係活動や委員会活動、学習活動、人間関係が育っていく環境を整えていきたい。 | A | A |
| 「学ぶ力」の育成 | 主体的に学ぶ意欲をもって取り組むことができる生徒の育成 | ・AARサイクルの視点で捉えなおした課題探究的な学習の推進 | A | 新学習指導要領に基づいた授業計画・内容・評価の改善に取り組むとともに、校内の研修体制の充実をより一層図っていく。全国学力学習調査、各種アンケートの結果等を踏まえ、各教科において、AARサイクルに基づいた教育課程の編成の工夫を図るとともに、個別最適な学び、共同的な学びの充実を図る。 | A | A |
| 「豊かな心」の育成 | 互いを尊重し、支え合うことができる豊かな感性と社会性の育成 | ・さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく自治的な活動の充実 | A | 引き続き、自分たちの学校生活をどのようなものにしていきたいか、そのためにどのようなことをすればよいのかを生徒自身が考え、話し合い、実行する機会を大切に。小学生と連携した自治的な活動（あいさつ運動やオンライン交流）を本年度同様に実施する。 | A | A |
| 「健やかな体」の育成 | 体力向上や健康的な生活に主体的に取り組む生徒の育成 | ・健康に関する指導の充実 | A | 養護教諭と連携を図り、保健分野の授業実践を行った。給食のメニューに関わる健康指導を給食中に実施し、保健指導と給食指導の連携を図った。 | A | A |
| いじめ対策 | ・いじめ対策委員会の実施 | ・生徒理解を目的とした相談活動やいじめアンケートの適切な実施 ・所属感を高める生徒指導の推進 | B | 定例のいじめ対策委員会の他、必要に応じて臨時開催も行い、いじめに関する情報収集と対策協議を行った。組織的な対応を進めることができたが、学校と家庭、第三者機関等の連携を更に図っていききたい。今後ともICTを利用したアンケートは、効果的に活用していきたい。 | A | A |
| 一貫性・連続性のある教育(小中一貫した教育) | 校種間の連携をはじめ、教員の資質・能力向上等の推進 | ・「小中一貫した教育」の充実と「コミュニティ・スクール」導入に向けて ・学び続ける教職員として主体的に研修に励み、資質能力の向上に努める | A | 札教研を通して、9年間の連続性を意識した交流を進めることができた。昨年までは春の研究集会のみの交流だったが、2学期末にも反省集約を行い、次年度は12月にも会合にてカテゴリー部会を設ける確認ができた。受け身にならない研修を継続していきたい。 | A | A |
| 学校関係者評価委員会 による意見 | | ・重点と評価の項目がわかりにくい。 ・自己肯定感の低さを改善する方策がまたれる。 ・Stimeに力を入れていることを、もっとアピールしてもよいのではないかと。 ・いじめ対策の評価はどこまでも学校として厳しく自己評価し、これからもいじめ対策に力を入れてほしい。 ・日常における人対人の対策を文言に入れてもよいのではないかと。 | | | | |
| 学校独自に 設定する分野 | 特別支援教育の推進 | | A | 担任、学年、SC、相談支援パートナーとの連絡、連携を強化し、生徒の実態に即した対応を図る。いじめ対策委員会と一緒に原則月に1回は学びの支援委員会を開催し、学校全体の共有と共通理解の充実を努める。研修会を通して、特別支援生徒への対応についての理解を深める。交流学習を行うことでインクルーシブ教育の充実を努める。 | A | A |
| | 効果的・効率的な学校運営の推進 | | A | 開かれた学校生活を目指し、学校情報の発信をHPやすぐー等で行った。今後も、学校情報の発信や学校公開方法を一層充実させ、保護者や地域の方々「子どもを中心とした学校運営への協力と理解」一層深めたい。 | A | A |
| 学校関係者評価委員会 による意見 | | ・開かれた学校として、ホームページは充実している。風通しの良い学校を目指してほしい。 ・いじめの対応は、状況に応じて、全体指導や情報提供があっても良い。期末懇談の際など、家庭のことだけでなく、学級や学校全体にかかわるヒアリングも担任側からあると話やすいと感じている。 | | | | |